

利賀っ子だより



R3. 11. 1

○ 分かりやすく示す

玄関掃除の子供たちが、下足入れにシールを貼ることの許可を求めに来ました。話を聞くと、外履きの入れ方が乱雑で、玄関が見苦しいので何とかしたいと考え、シールを貼ってみることにしたとのことでした。これまでも、この子供たちは、下足入れにきちんと下足を入れるように呼びかけていましたが、急いで下足を入れているのか、それとも“きちんと”が分かりにくいのかなかなか思うようにいかなかったようです。

子供たちが下足を置く場所に目印のシールを貼ってからは、上の写真のように毎日整然と下足が入れています。

戦後の教育者である大村はま先生の著書「灯し続けることば」の中に浴衣のたたみ方に四苦八苦しているときにお母さんが「裾をもちなさい」と言われたことで、きれいにたたむことができたという話があったことを思い出しました。私たち大人も具体的で適切な指示ができれば、子供たちを目標とするところに導くことができると再認識させられました。



整然とした下足入れ

○ 将来のために みんなを巻き込んで！



作戦会議中の高学年の子供たち

SDGsについて学習している高学年の子供たちが、ポスターを校内に貼って全校児童にも自分たちができることに取り組もうと呼びかけてきていました。これだけではまだまだ不十分と考え、先週からは、毎朝「今日の実践」と称して、「できる人は、牛乳のストローを使わないで」「雑巾を洗うときは、バケツを使い、水を流しっぱなしにしないで」など実践の内容とそうすることがSDGsの目標とどうつながるかの説明をして全校に実践を呼びかけています。おかげで「Oさん、私、SDGsやったよ。」と高学年に報告している下級生もあり、

利賀小学校の児童の意識は高まってきています。

高学年の子供たちは、この取組を地域にも広げたいと考え、話し合っているところです。今後の学習を見守っていきたいと思います。

(高田 公美)